

平成28年度を迎えて

院長 瀬戸嗣郎



左から、寄付者・山内様、瀬戸院長、櫻井看護部長、真奈事務部長

平生は、地域の病院や診療所の先生方には、医療連携等で大変お世話になり感謝申し上げます。

昨年度を振り返りますと、新しい診療体制として、開院以来初めて、耳鼻咽喉科の常勤医に橋本亜矢子医師が着任し、発達小児科には溝淵雅巳医師が科長として就任いたしました。耳鼻科の手術が可能になり、発達障害診療においては、当面、小林先生との2診体制ですので、受け入れのキャパが増えました。他の診療科も含めまして、これまで以上にご紹介いただけたらと思います。また、3月末をもって、循環器科の小野安生副院長が定年により退任しました。皆様方には長い間お世話になりありがとうございました。替わりまして本年度から、新生児科科長の田中靖彦医師が循環器科科長となり、新生児科科長の後任には中野玲二医師が昇格します。お引き立ての程どうか宜しくお願い申し上げます。

さて、約2年間を費やしました外来の新棟建設および旧診察室の改修が終了し、2月8日にオープンとなりました。新しく設けた機能の一つは、総合相談窓口と在宅支援室です。玄関を入ってすぐのところに地域医療連携室とともに設置しました。これで、患者さんや外部機関に対しまして、ワンストップサービスができるようになりました。もう一つは、これまで当院に不足していた患者サービスやアメニティーの向上です。障害者用の待合室、広い授乳室、食事もできる休憩室、トイレの改修増設、外来患者図書・情報コーナーなどです。また、寄付金を活用して、外にはミッフィートレインの野外遊具、屋内には森の小屋を模したカラクリ時計を設置しました。子ども達に喜んでもらえると思います。

本年度も、地域連携を密にして、質の高い小児医療を提供していきたいと考えておりますので、皆様方の変わらぬご支援をお願い申し上げます。

news 全国児童青年精神科医療施設協議会 第46回研修会を開催しました



山崎先生から開会のあいさつ

平成28年2月5日～6日、静岡県コンベンションアーツセンター・グランシップにおいて、当院の山崎こころの診療部長が代表を務める全国児童青年精神科医療施設協議会の研修会が開催されました。この研修会には、協議会に加盟している41施設の医師、看護師、精神保健福祉士、保育士、臨床心理士等約400名が参加し、「自殺行動を示す子どもの入院治療」をテーマに活発な意見交換がなされました。参加者は児童青年の精神疾患について議論を深め、研修会は盛況の内に幕を閉じました。



研修会の様子



自己紹介

こころの診療部発達小児科の常勤医として診療を行っております溝渕雅巳と申します。平成3年高知大学医学部卒で、神戸大学の医局に籍を置いております。現在は神戸大学の非常勤講師として発達障害に関する研究を継続しております。これまで、兵庫県立こども病院、神戸大学病院、高槻病院、スタンフォード大学などに勤務して参りました。平成27年4月より静岡県立こども病院に勤務することとなり、発達障害診療の先進的機関である豊田市こども発達センターへの国内留学を経て、平成27年11月より発達小児科の外来診療をスタートさせて頂

発達小児科紹介

発達小児科では「発達障害」の外来診療を専門に行っております。「発達障害」にはどのような疾患が含まれるかを簡単にご紹介いたします。ご承知の通り、精神科領域の国際的診断基準であるDSMが改定(DSM-5)され、日本でも2014年より疾患名の変更が行われています。いわゆる「発達障害」はNeurodevelopmental Disorders 「神経発達症群」と呼称変更となりました。これまでDisorderに対して「障害」という和名が当てられていましたが、今回から「症」(変化しうる症状)が当てられています。自閉スペクトラム症や注意欠如・多動症などもその例です。特に発達小児科領域では、「障害」という疾患名を使わないことは、ご家族に病態を説明する際にも好ましいと考えられます。また、これまで使われていた広汎性発達障害は自閉性障害、アスペルガー障害などを含む疾患概念でしたが、DSM-5では自閉スペクトラム症(スペクトラム=連続体)としてまとめられました。その他、発達小児科で扱う主な疾患を表に示しております。

また、ご承知の通り「発達障害」は生まれつきの脳の特徴と考えられますので、「発達障害」が疑われた場合には、早期にご紹介いただくことが大切と考え

きました。

発達小児科外来では「発達障害」の診療を専門に行っております。「発達障害」の診療内容につきましては、以下の「発達小児科紹介」をご参照いただけますと幸いです。当科では当院こころの診療科診療支援部(心理療法、言語療法、作業療法、理学療法)、地域の医療機関、地域の学校など関係機関と連携を取りながら、「発達障害」をもつお子さんとそのご家族をサポートして参りたいと考えております。また、いまだ明らかにされていない「発達障害」の原因究明や治療法の開発につきましても、神戸大学をはじめ各専門機関と連携し、微力ながらお役に立ちたいと考えております。

ています。

子どもの脳の特徴を早期に診断し、その子の特徴に合わせた療育・支援を早期に開始することが、その後の発達の促進や二次的な精神疾患の合併を防ぐのに有効と考えられています。3歳児健診までに「言葉の遅れ」に加え、「視線が合いにくい」「指さしをしない」「呼んでも反応しにくい」「多動で落ち着きがない」「人のまねをしない」などが認められる場合は、ハイリスク児として専門的な評価が必要となります。また、入園してからの「集団生活の困難さ」や就学後の「学習の困難さ」などから発達特性が顕在化する場合も少なくありません。中学生までのお子さんと「発達障害」が疑われる場合は、いつでもご遠慮なくご連絡ください。

	DSM-5	DSM-IV
1	自閉スペクトラム症	(広汎性発達障害)
2	注意欠如・多動症	(注意欠陥・多動性障害)
3	限局性学習症	(学習障害)
4	言語症(言葉の遅れ)	(言語障害)
5	知的発達症(知的な遅れ)	(精神遅滞)

こども病院外来リニューアルオープン!

今年度4月より改修工事をしていた外来区域の診察部門の施工が完了し、平成28年2月8日(月)よりオープンしました。

昨年度竣工の新外来棟と合わせ、外来全体を海・空・山・花畑とエリア分けし、各テーマをモチーフとした絵やシンボルが診察室の扉・看板などにデザインされています。外来入口付近には総合相談窓口を開設し、患者さんからの様々な相談に対応する他、在宅支援カウンター、図書・情報コーナーも集中的に配置することで、在宅物品や医療情報の提供にあたり、患者さんへの負担を軽減、外来診療の一助となるように設計されています。また、外来待ち時間対策として、患者さんがリラックスして過ごせるよう



アメニティ広場を設置し、自然の光が差し込むカウンターなど、緊張しがちな雰囲気や和らげる工夫を施しました。外来受付カウンターには県産材を使用し、やわらかく安らぎの印象を与えるものとなっています。その他にも、改修工事に合わせて、競輪の山内大作選手寄贈により、外来駐車場横に「ぼっぼ広場」を整備、外来ホールには「からくり時計」が設置されました。



からくり時計

ぼっぼ広場

今回の改修により診察室数増加、患者プライバシーの確保による外来診療機能強化の他、待ち時間対策に考慮した患者アメニティの向上が図られました。

こども病院コラム

小児感染症科 莊司貴代



(略歴) 平成14年東京女子医科大学卒業、同大学小児科・感染症科、順天堂大学感染制御科学、東京都立小児総合医療センター感染症科をへて平成26年4月に静岡県立こども病院総合診療科スタッフ、平成27年4月小児感染症科新設

●自己紹介

小児感染症医をしています。平成26年6月より当院で抗菌薬適正使用チーム(SAT)のメンバーとして活動しています。SATには年間300件以上の相談数があり、感染症診療の質の担保、細菌検査の適正化、耐性菌制御・抗菌薬コスト削減に寄与しています。

●小児感染症科の紹介

小児感染症科は総合診療科に属し、レジデント教育・ER診療・小児総合診療・在宅医療を感染症の観点からバックアップしています。回診、細菌検査研修、他施設との合同カンファレンスなど教育機会を設け、3年のレジデント期間に世界標準の小児感染症診療が出来るように指導しています。

●地域の先生方へ:ともに薬剤耐性菌と戦いましょう!

急激な耐性菌の増加と新規抗菌薬開発の停滞により、こども達が将来耐性菌感染症で死亡するという悪夢が現実となりつつあります。勉強会・症例検討会で当院の耐性菌による被害状況や賢い抗菌薬の使い方について取り上げています。また保護者や市民に広く「風邪に抗菌薬をつかうのをやめよう」と発信しましょう。将来のこども達に抗菌薬を残すため、ともに行動をおこしましょう。



抗菌薬の適正使用をよびかけるレジデント

こころの診療部の対象疾患の変更についてお願い

こころの診療部長 山崎 透

医療機関の皆さまにはいつもお世話になっております。こころの診療部の山崎透と申します。従来、当院では発達障害を含む子どものこころの問題につきまして、発達小児科(以前の発達心療内科)とこころの診療科で担当しておりましたが、対象疾患が重なることから、県民の皆さまやご紹介いただく医療機関の皆さまに「わかりにくい」「どちらの科に紹介すればいいのか」といったご指摘をいただきました。

この度、院内の組織改編で、こころの診療科と発達小児科が「こころの診療部」に所属となったこと、「こども病院ひろば」でご挨拶させていただいた溝淵雅巳が発達小児科で本格的に診療を始めたこともあり、以下のように対象とする患者様を変更させていただくことになりました。なお、ご紹介状の中身を拝見した上で、ご依頼いただいた科と違う方の診療科に変更させていただきたい場合には、ご紹介いただいた医療機関様や保護者の方にご連絡をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

●**発達小児科**・中学生以下の発達障害圏の診療をおこないます。

1. **自閉スペクトラム症** (広汎性発達障害)
2. **注意欠如・多動症** (注意欠陥・多動性障害)
3. **限局性学習症** (学習障害)
4. **言語症** (言葉の遅れ)(言語発達遅滞)
5. **知的発達症** (知的な遅れ)(精神発達遅滞)



●**こころの診療科**・中学生以下の発達障害を除いたこころの問題の診療をおこないます。

1. **不登校サポート外来**・学校に行けない、教室に入れないといった、不登校に悩むお子さんや保護者の支援をおこないます。
2. **摂食障害外来**・やせてきているのに「太っている」と言って食べない、ダイエットに歯止めがきかなくなった、食べては吐くのを繰り返しているといった、食事や体重、体型へのこだわりで悩むお子さんや保護者の治療・支援をおこないます。
3. **ストレスケア外来**・学校生活や受験、友達関係からくるストレスなどによりさまざまな身体的不調が出現したり、この頃元気がない、やる気が出ない、イライラするといったうつ状態を来しているお子さんの治療・支援をおこないます。
4. **こころの診療科総合外来**・上記の専門外来以外の子どものこころの問題全般の治療や援助にあたります。例えば、不安感が強い、同じことを何度も繰り返さないと気がすまない、他人の視線が気になる、眠れない、災害や事故の後に不安定になったなどです。

● 読者からの投稿を受け付けています ●

小児医療や当院に関する意見、質問をお寄せください。住所、氏名、年齢、電話番号を明記、あて先は、〒420-8660 静岡県立こども病院医療サービス課「ひろば読者投稿」係 (FAX:054-247-6259、MAIL:kodomo-keiei@shizuoka-pho.jp)。原則として200字以内でお願いします。